

豊商事株式会社

平成24年3月期第2四半期累計期間(連結)決算
会社説明資料



豊 商 事 株 式 会 社



会社概要

創立	昭和32年1月17日
資本金	17億2,200万円（平成23年9月30日現在）
代表者	取締役社長 石黒 文博
事業所	本店・10支店
従業員数(連結)	355名（平成23年9月30日現在）
取引銀行	三井住友銀行、みずほ銀行、西日本シティ銀行、りそな銀行
関係会社	YUTAKA SHOJI SINGAPORE PTE.LTD. ユタカエステート株式会社 ユタカ・フューチャーズ株式会社 ユタカ・アセット・トレーディング株式会社



沿革 (1)

昭和32年 1月	豊商事株式会社を福岡市天神町55に設立
昭和36年12月	本社を東京に移転する
昭和46年 1月	登録制から許可制への移行に伴い、農林大臣及び通商産業大臣 (現 経済産業大臣)より商品取引員(商品仲買人から名称変更) としての許可を受ける(17商品取引所22商品市場)
平成元年 3月	三菱商事株式会社と業務提携
平成 2年 2月	YUTAKA SHOJI SINGAPORE PTE. LTD. 設立
平成 3年 4月	東穀不動産株式会社(現:ユタカエステート(株))を子会社とする ユタカ・フューチャーズ株式会社(東京)設立
5月	日本商品投資販売業協会(旧日本商品ファンド協会)加入
10月	豊不動産株式会社を吸収合併
平成 7年10月	商品ファンド運用法人認可
平成 7年11月	株式を店頭公開 (証券コード8747:ジャスダック証券取引所 (現 大阪証券取引所 JASDAQ スタンダード))



沿革 (2)

平成 9年 2月	東京金融先物取引所(現 株式会社東京金融取引所)加入
平成17年 9月	改正金融商品取引法に基づく金融先物取引業の登録
平成18年 2月	プライバシーマーク認証を取得
4月	取引所為替証拠金取引「くりっく365」開始
平成19年 1月	創立50周年
平成19年 7月	ユタカ・アセット・トレーディング株式会社設立
平成22年11月	日本証券業協会に加入 (株)東京金融取引所にて「くりっく株365」を取引開始



加入取引所

国内 東京工業品取引所
東京穀物商品取引所
関西商品取引所
東京金融取引所



事業内容

商品先物取引

商品ファンド

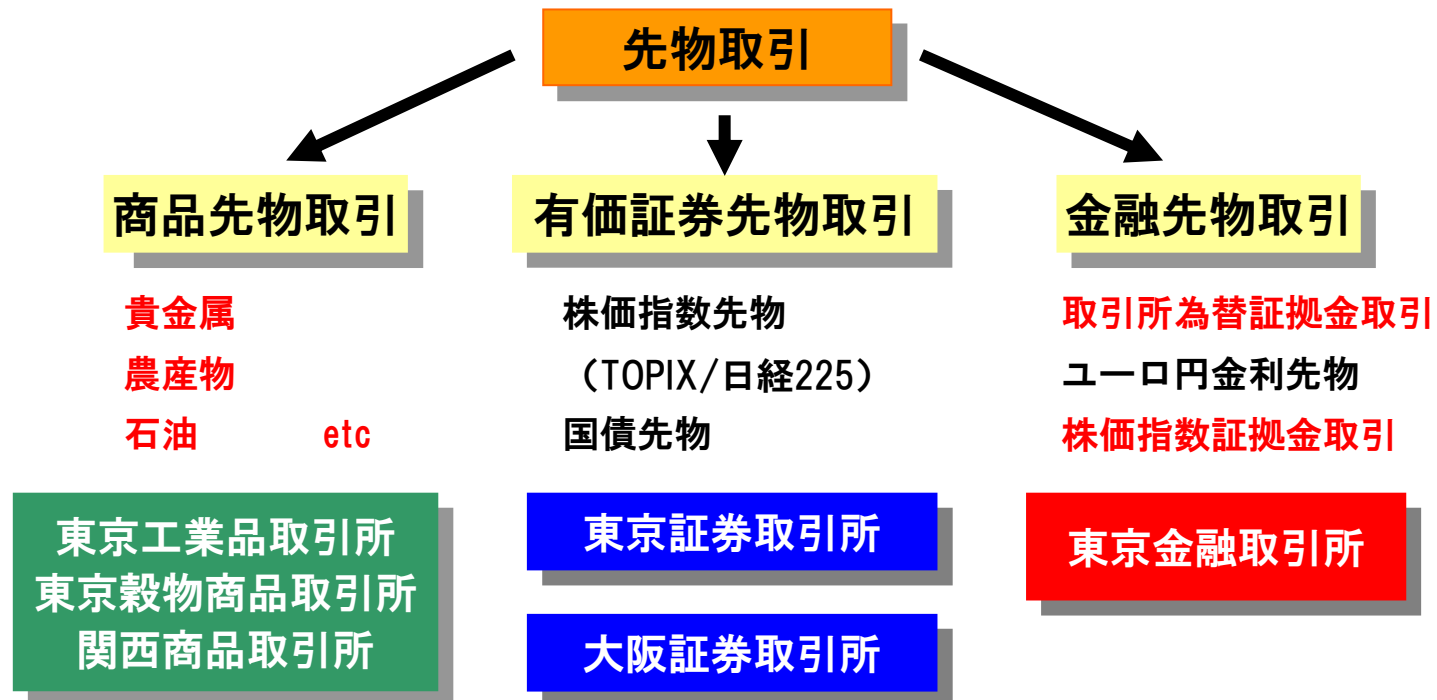
F X取引：取引所為替証拠金取引(商品名：「Yutaka24」)

C F D取引：株価指数証拠金取引(商品名：「ゆたかCFD」)

貴金属現物販売業務

当社オリジナル商品(「金庫番」「プラチナ倶楽部」)の販売

日本で行われている先物取引





商品先物取引

商品先物取引とは「将来の一定期日に、取りきめた値段で取引することを約束する取引」です。

主たる商品先物取引の機能として下記の3つがあります。

「リスク・ヘッジ機能」

農作物の生産者や原油を輸入する商社などが、価格が値上がりや値下がりするリスクを回避（ヘッジ）する手段として利用しています。

「資産運用機能」

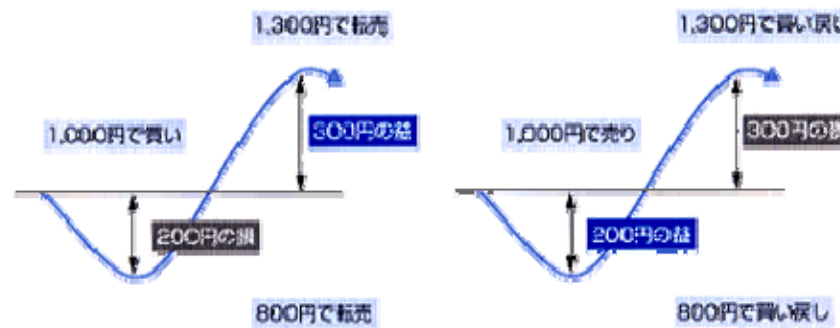
金融派生商品（デリバティブ）として、株式や土地などと同じように商品先物は、法人や個人の資産運用の有益な手段ともなっています。

「価格形成機能」

天候や経済情勢により、高いか安いかどちらか一方によってしまった商品の価格を、先物取引を利用することで需要と供給の調整を生み、公正な価格を形成することとなります。

先物取引の仕組み

商品先物取引で特徴的なことは「約束の期日を待つ物の受渡しを行うこともできるし、また約束の期日以前ならば、いつでも、その時点の価格ではじめの取引とは反対の売買を行うことによって当初の「買い」又は「売り」の契約を解消し、品物の受渡しをしないで、差金決済するだけで取引を終了させることもできる取引」であることです。最初買い付けるだけでなく、途中で買い戻して差金決済すればよいのですから、品物をもっていなくても「売り」から取引を始めることができます。買い付けたものが値上がりしたときに転売すれば買値と売値の差が利益となり、売り付けたものが値下がりしたときに買い戻せば利益となります。（逆の値動きの場合は損失となります。）つまり「買い」から始めても「売り」から始めても、買値より売値が高くなれば利益が生じます。このように商品先物取引では、値上がりだけでなく値下がり局面でも利益を追究することができるのです。



上場商品の種類

農産物

とうもろこし 大豆 小豆 コーヒー豆 コメ

エネルギー

原油 ガソリン 灯油 軽油

貴金属

金 銀 白金 パラジウム

その他

粗糖 ゴム 冷凍えび

商品指数

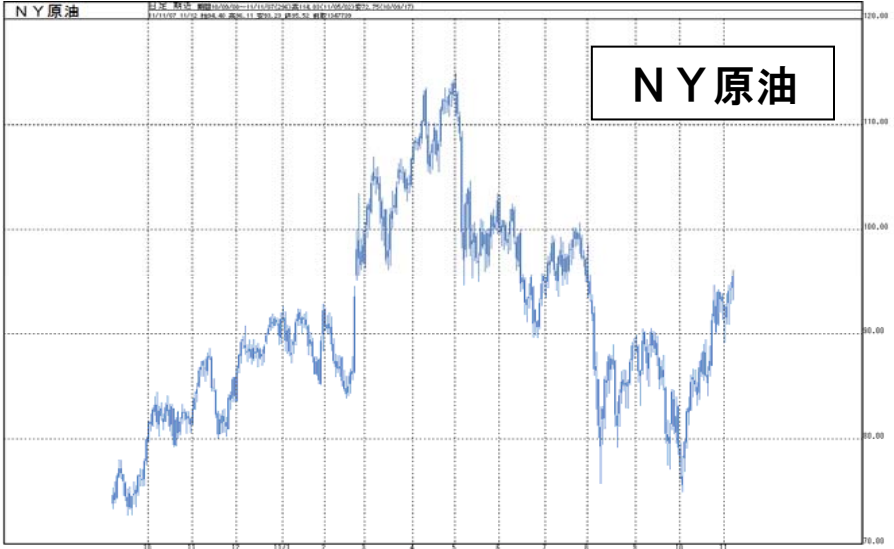
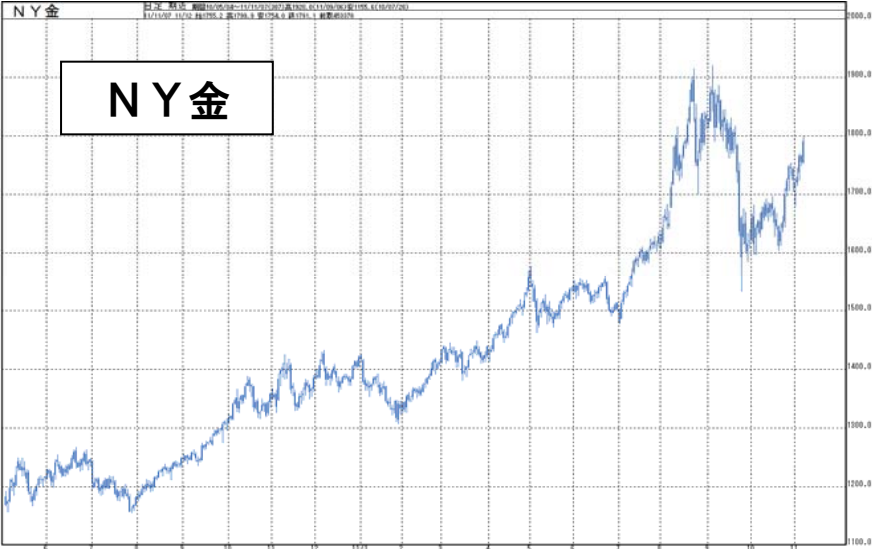
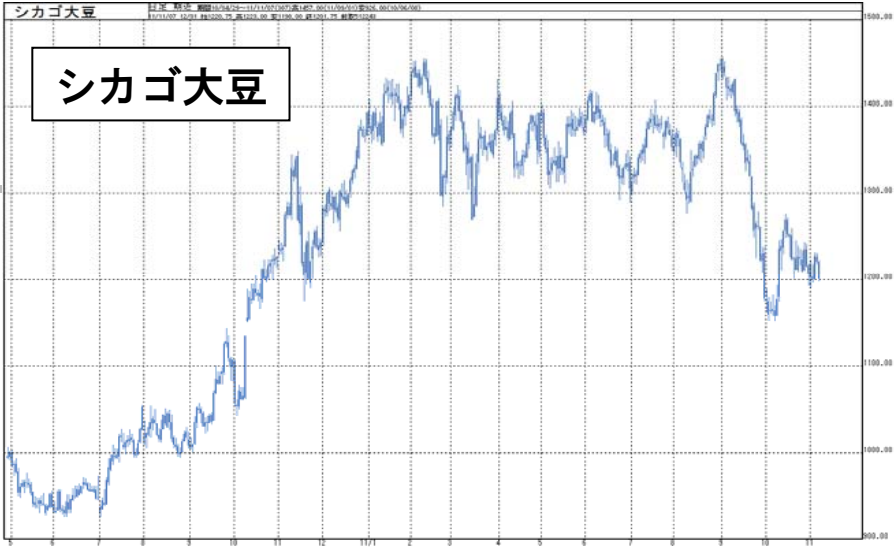
日経・東工取商品指数 (TOCOM NEXT)



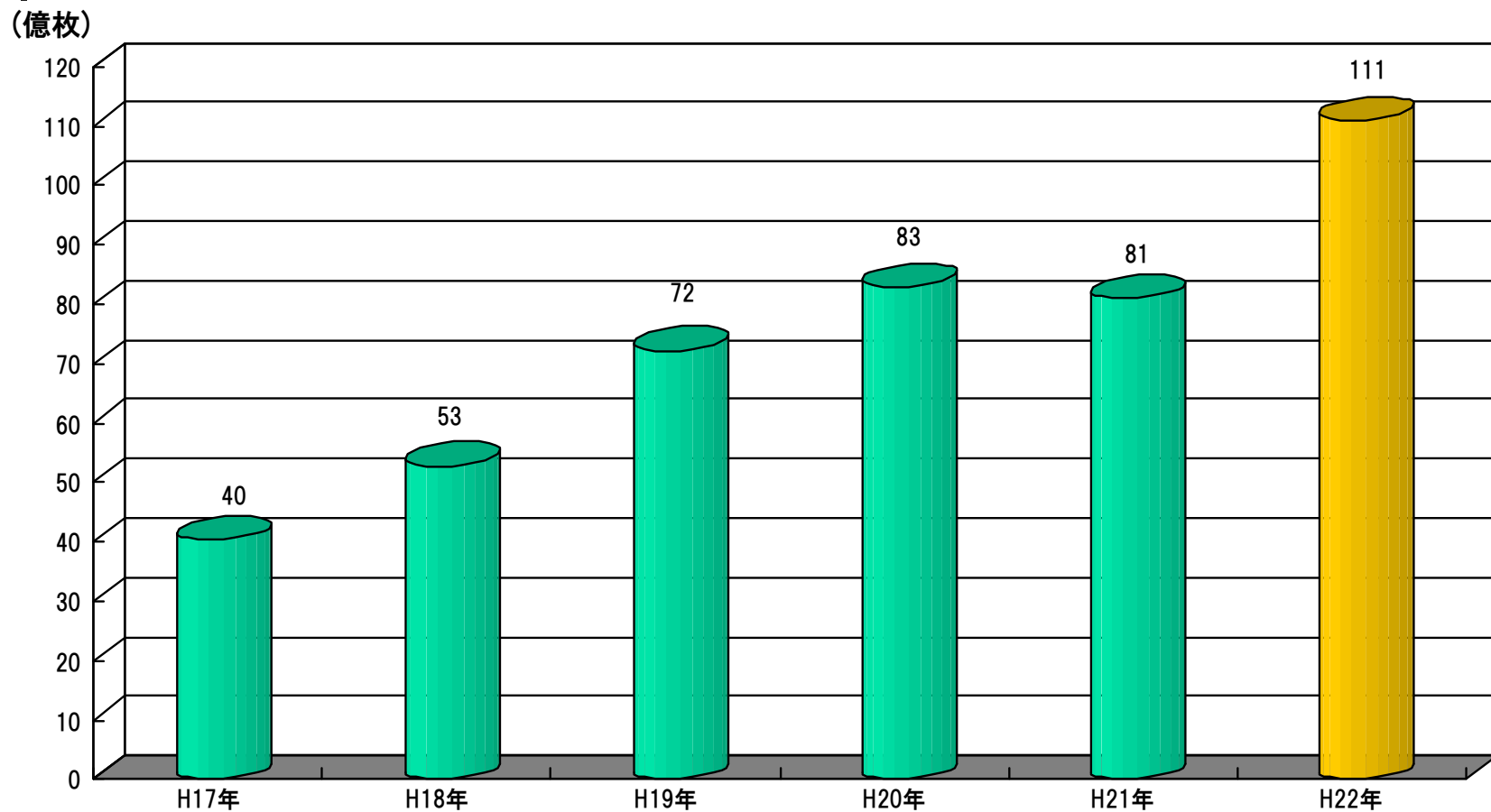
何故、今「コモディティ」が注目されているか

- ①世界的な人口の増加
 - ②BRICs(ブラジル・ロシア・インド・中国)の経済発展
 - ③イラン・イラク問題などの中東情勢 ⇒ 地政学的リスクの増大
 - ④温暖化・砂漠化の進行による環境破壊 ⇒ 穀物需給の逼迫
 - ⑤エタノール・バイオディーゼルなどの増産 ⇒ 新たな需要の出現
 - ⑥世界的なドル安・株安の進行
 - ⑦ギリシャなど欧州圏での債務懸念
- 需要の増加・拡大
- 投機マネーの商品市場への流入

商品価格のチャート



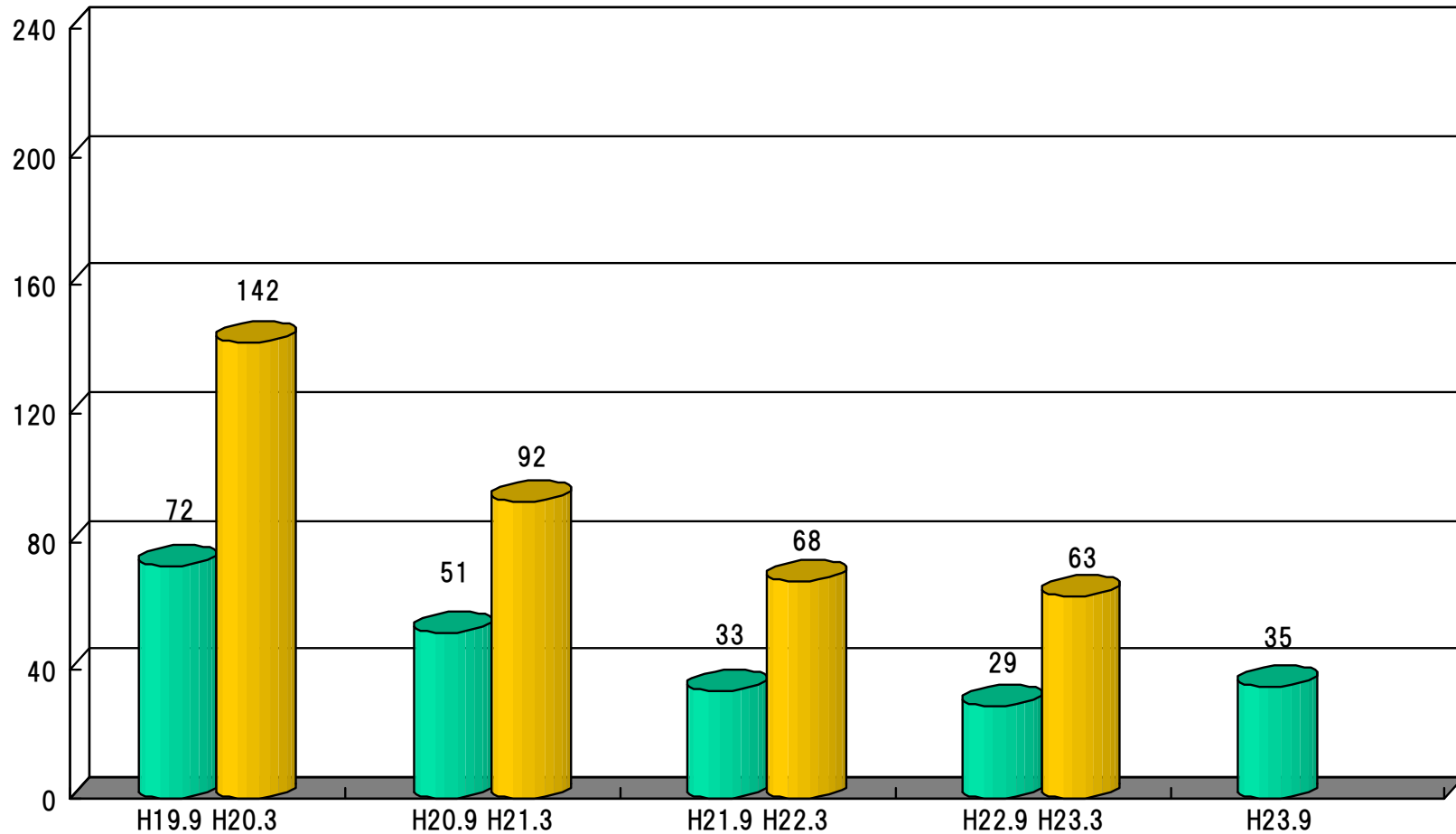
先物市場の出来高合計の推移(世界)



注)出典： 矢野経済研究所

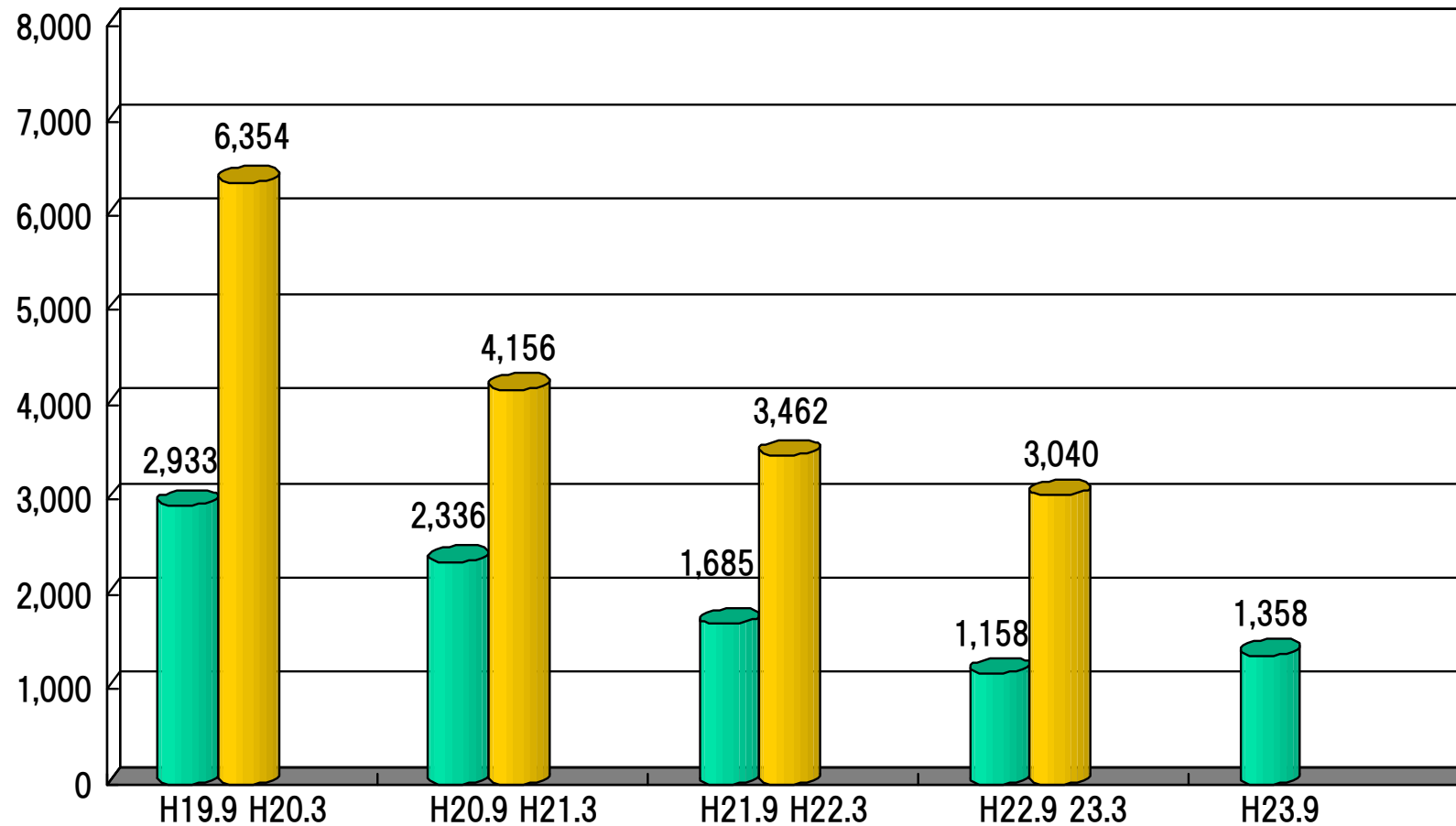
先物市場の売買高合計の推移(国内)

(百万枚)



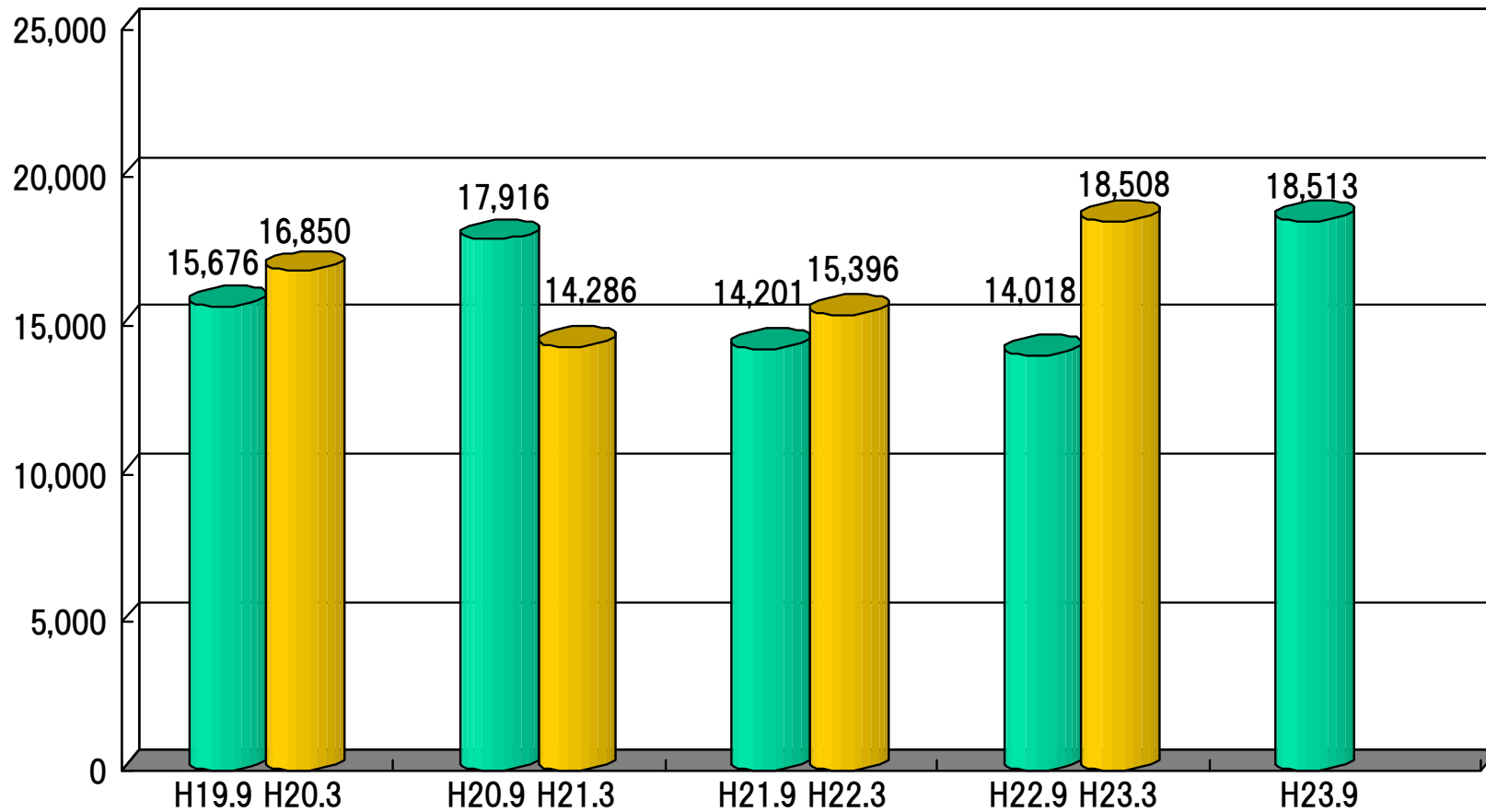
豊商事連結の先物市場の売買高合計の推移

(千枚)



豊商事連結の先物取引預り残高の推移

(百万円)





何故、今「豊商事」なのか！

安心・信頼・安全 これまでもこれからもお客様第一主義

①コンプライアンスの徹底

金融商品取引法の施行前からコンプライアンス重視の経営姿勢。
勧誘規制が強化されても左右されることのない経営。

②「情報の質」の追求

誰もが知っている情報を様々な角度から分析し、役に立つ情報
に変えてお客様にお届けする。

③フェイス to フェイス

インターネットによる取引が主流になっていく中で、対面営業
を主として取引の仕組みやルールをお客様がしっかりと理解し、
安心して取引を行える。



プロによる相場のレポートからセミナー
まで動画配信による投資情報の提供

Yutaka Market TV

<http://www.yutakamarket.tv/index.php>

おはようFX / おはようFXイブニング

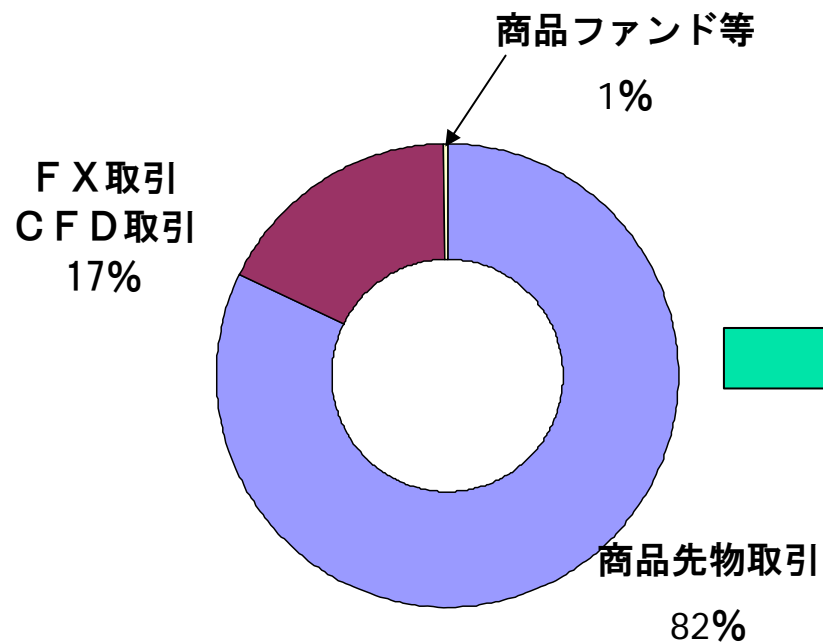
<http://www.yutaka24.jp/seminar/fx.shtml>

金融セミナー

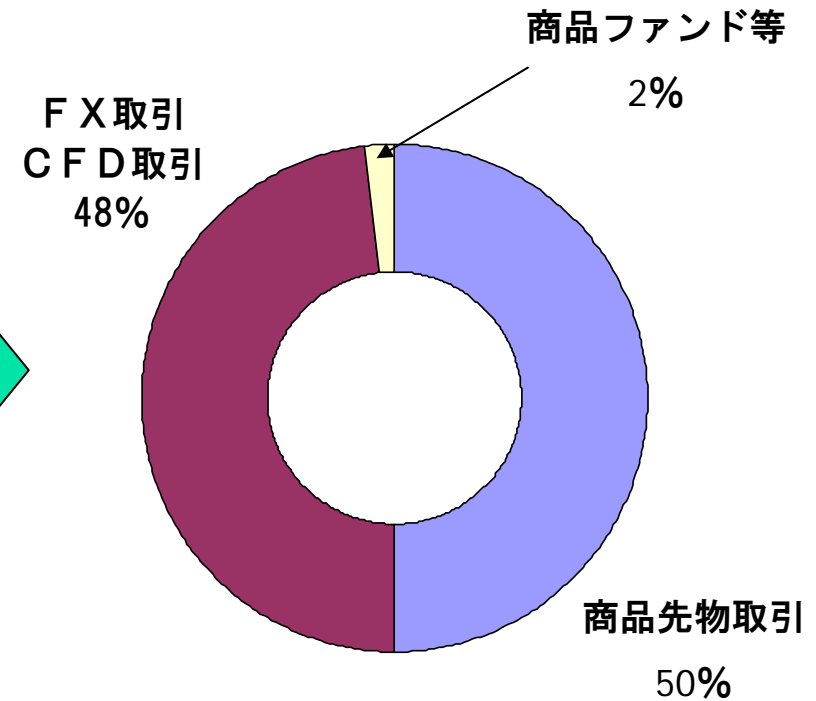
<http://www.yutaka24.jp/?url=/seminars>

豊商事の収益構造

現在の収益構造図(平成24年第2四半期)



今後の目標収益構造図





FX取引

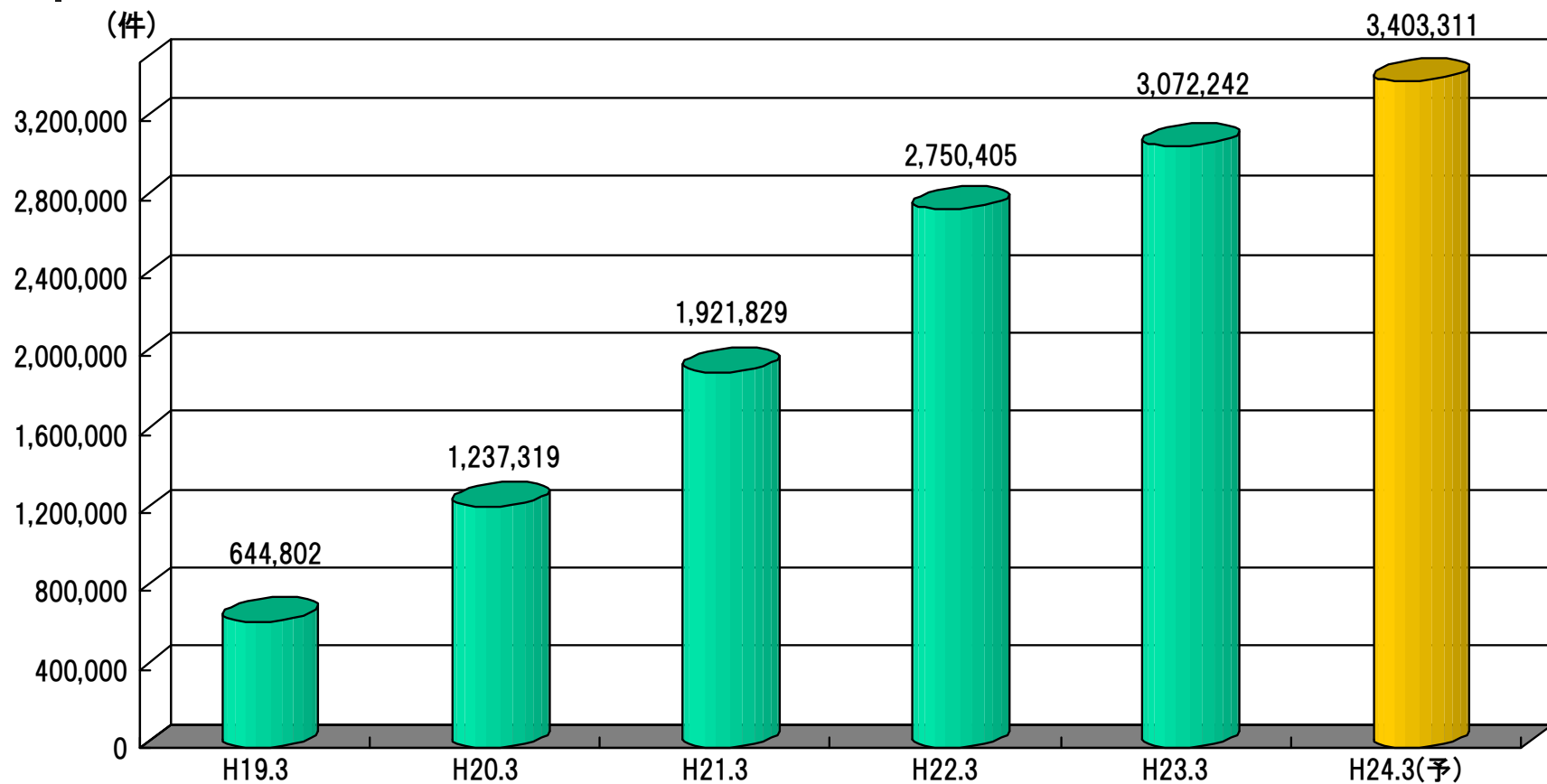
FXとは通貨の売買を行う「外国為替取引」と「証拠金取引」がセットになった新しい金融商品。

外国為替取引とは、通貨を売買することで利益を狙う取引で、先物取引と同じように「安いときに買って高く売る」ことで利益になるだけでなく、「売り」から始めても、買値より売値が高くなれば利益が生じます。（逆の値動きの場合は損失となります。）

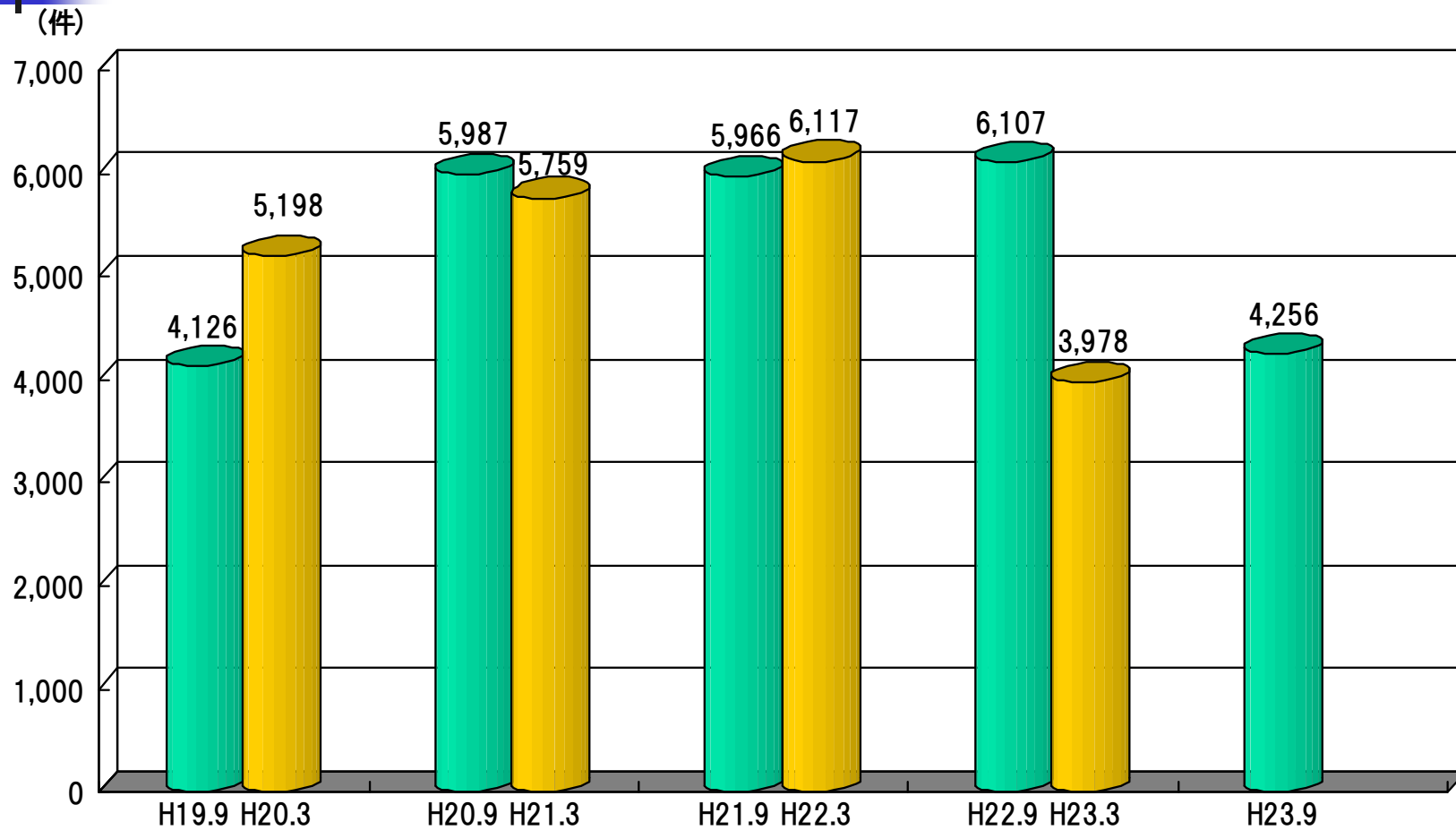
さらに、金利の高い通貨を買えば、保有期間中に「スワップポイント」という金利調整分を受け取ることもできます。



FXの口座数推移(国内)



豊商事のFX口座数の推移





CFD取引

CFDとは「差金決済」という意味で、実物資産を売買するのではなく、株式や商品、外国為替などの価格を投資対象として売買する、金融派生商品（デリバティブ）のひとつです。最近よく聞くようになった「FX取引」も同じ仲間になり、一般的に外国為替をFX、それ以外の金融商品をCFDと呼びます。現在の価格が投資対象となっており、また決済期限がありませんが、現物取引と違い「安いときに買って高く売る」だけでなく、「高いときに売って安く買い戻す」ことで利益を追求することができます。

※当社は、平成22年11月より株価指数証拠金取引(商品名：「ゆたかCFD」)業務を行っております。



最近5事業年度第2四半期累計期間（連結）の主要経営指標の推移

回次	第52期	第53期	第54期	第55期	第56期
決算年月日	平成19年9月	平成20年9月	平成21年9月	平成22年9月	平成23年9月
営業収益 (千円) (うち受取手数料)	3,709,102 (2,814,119)	3,345,357 (2,172,186)	2,152,239 (1,950,846)	2,194,596 (2,054,756)	2,476,603 (2,347,879)
経常利益 (千円)	538,169	486,634	△ 472,356	△ 249,398	171,362
四半期純利益 (千円)	288,079	266,500	△ 251,391	△ 179,523	89,640
純資産額 (千円)	10,866,924	11,305,561	10,356,938	10,101,710	9,288,689
総資産額 (千円)	40,302,705	42,582,902	37,343,328	33,677,810	37,551,765
1株当たり 純資産額 (円)	1,243.08	1,327.35	1,254.69	1,233.09	1,129.94
1株当たり 第2四半期累計純利益金額 (円)	32.91	31.20	△ 30.29	△ 21.78	10.90
自己資本比率 (%)	26.8	26.5	27.7	29.9	24.7

最近5事業年度(連結)の主要経営指標の推移

回次	第51期	第52期	第53期	第54期	第55期
決算年月日	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月
営業収益 (千円) (うち受取手数料)	7,811,404 (7,024,998)	8,399,966 (6,850,139)	5,090,303 (3,498,789)	4,683,953 (4,851,142)	4,377,018 (4,176,271)
経常利益 (千円)	1,281,593	1,634,812	△237,399	△431,100	△387,211
当期純利益 (千円)	607,195	909,739	△260,945	△270,435	△974,702
純資産額 (千円)	10,944,511	11,252,131	10,685,656	10,402,588	9,352,974
総資産額 (千円)	42,125,256	39,995,232	35,951,685	45,534,521	35,858,960
1株当たり 純資産額 (円)	1,233.64	1,307.80	1,279.57	1,259.30	1,132.93
1株当たり 当期純利益金額 (円)	68.86	104.92	△30.75	△32.70	△118.25
自己資本比率 (%)	25.8	28.0	29.7	22.8	26.0